

西洋道中膝栗毛

九編
上



門 184
冊 1260
卷 17

萬國航海

假名垣魯文戲著

西洋

道中膝栗毛

第九編

一蕙齋芳幾戲筆

萬笈閣梓

東京書肆

西洋道中膝栗毛第九編序

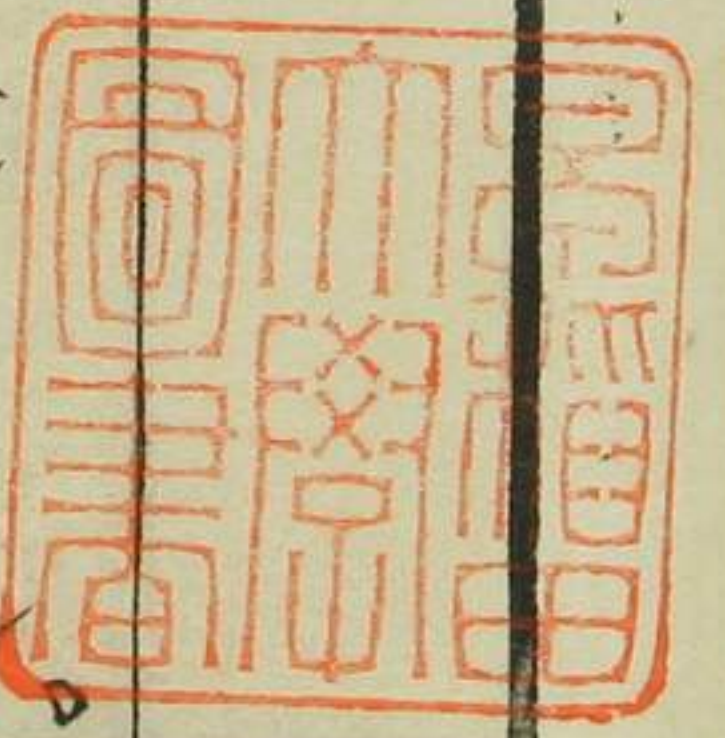
假名垣魯文先醒を戯作の妙をエレキテ

彼傳信機の機關とて、世は通商の大聲

墨耳嚮の栗毛の編に、次楮幣の楮數の筭

九編十偏一尤が趣向に、依らざる實地を、穿

寫真鏡、嗚呼先醒、才高、おぬ、ホテ、の、



樓上^{うき}位^ゐし^し。脚^{あし}色^{いろ}女^に深^{ふか}ま^まや航^{かう}集^{しゆ}の^の浅^あく
 以^もて^て人^{ひと}力^{ちから}車^{くるま}の^の人^{ひと}氣^きを^を得^える^る。今^{いま}迄^{このま}
 の^の一^{いっ}等^{とう}と稱^{しょう}せ^せる^る。僕^{わが}等^らは^は路^{ちよ}路^{ちよ}若^{わか}女^に全^{ぜん}社^{しゃ}代^{だい}
 繫^ひく^く。因^より^りの^の横^{よこ}濱^{はま}と^と東^{とう}京^{きやう}の^の地^ちは^は数^{すう}字^じ也^や
 傳^{つた}へ^へる^る。は^は序^{しよ}文^{ぶん}を^を加^かへ^へる^る。云^い爾^に。

皇^わ倭^に明^{めい}治^ぢ龍^{りゆう}集^{しゆ}第^{だい}八^{はち}月^{げつ}西^{せい}洋^{やう}紀^き元^{げん}

ソラ^{ソラ}一^{いっ}千^{せん}八^{はち}百^{ひゃく}七^{しち}十^{じゅう}一^{いち}年^{ねん}九^く月^{げつ}初^{しよ}旬^{じゆん}也^や

南^{なん}港^{かう}羽^う本^{ほん}街^{がい}の^の寓^う居^きし^しる^る序^{しよ}

魯^ろ文^{ぶん}大^{だい}哥^かの^の句^く調^{てう}を^を倣^{なま}ひ^ひ爪^{つめ}彈^{だん}の^の

消^{しょう}筆^{へつ}紙^し操^{そう}る^る

倭^わ屋^や書^{しよ}語^ご



仕て名を冠す事此品

人力車ドモトカーの駕カをたぐるカのカ囉子カ
蝙蝠フクロウを三途街ミチノミチを歩カけ
地震カを案内カの地獄カ巡カり
長管カを足カを敷カ
人先カを招カきて一カを飲カむ
和藤内カよりふカを畜カいせ

風衣カを著カる中宗カ於カ於カ得カ
氣球カ船カに乗カて天学カ遊カび
洋髪カ頭カをかカむを止カし
樂天カを呼カぶ院本カを作カせ
洋羊カ代カ喰カを衆カを愛カし
福内カ鬼外カの閑カ暇カをカせ

那破カ命カと義経カを聞カくを
文明カにヤホンカを腸カを洗カふ

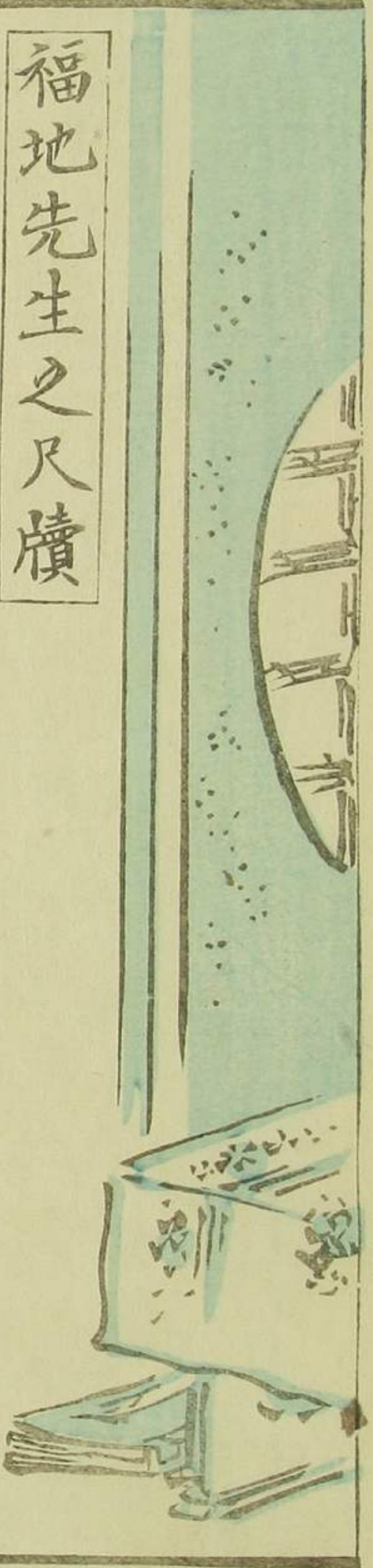
神代カ字カを娼妓カの玉章カ
云々

今歳カの融通カ帳カ 明治四年カ此日カを月見カ
然カる團子カはカ食カ應カをカ活カ水カ飲カむ
醉カを醒カせしカ寫真カ狂カ人カ北庭カ免カ又カ波カ
假名カ垣カ見カの作カ松カをカ戲カを吐カ



西洋果毛丸

福地先生之尺牘



秋雨之佳如昔多持之
物之及
相傳之信亦二舟信之
台返望
外之舟信亦之

口之海之
相傳之信亦
相傳之信亦
相傳之信亦

仲秋也

梅影

修名
修名
修名

神史家の脚色

「とだふせんせいのこの
 若の西洋どやうへ
 つげこんでるん
 ぞ同様のの
 うハッ
 まるこ
 ハッ
 ませんうお仕
 ハッ
 入ッ
 おあつてを終ぐひま
 そろそろこれをいふ仕入もあるが
 此の休次北ハッひまやせんや
 航海のたびひまやせんを西
 だまらうひまやせんげとやあやら



一蕙齋字幾

写真



うーてらういふをいふにハッハッハッ
 ころやアアアアアアアアアアア
 はせんやうもまアアアア
 けせんやう
 むあうの
 だこんし
 ぬらうつれ
 だまらうだ
 ざりませんせん
 せんどううま
 だれとせんせん
 おろろせんひひひ
 せんがうくざんの
 りんるのてなせんま
 へふこだつげア
 どうろり後成り地
 中海らう ままのらう



三

波濤萬里

山遥碧石

隨庵



西洋道中 栗毛九編上

東京

假名垣魯文戲著

方今の放浪おさんきり天窓を敲りてゑるまは文
明展化の事かまると実あや西洋者團と交際のもち
ひらけしよりや後著大岡猶始息どろり流を長
袖の餘細のなる目ふのどし「チヨツキ」「マンテル」皆
ホに輝天板掛殺引の使者も腰のまねくひを二重
まのりの後強び被兵児帯小披まもてくるお卒

西洋栗毛九

其のちろつとくも洋借よ旨を巻込され底も
 あらぬ大洋を苦もあく航る前めぐり沖をこく
 たる活弁の島法めぬ々め内邦水ひまの大利よ走
 るは後居廣一家が寄居する博覧會の花柳
 船既よ亞丁をわ航して六百余里の海上を六日略
 あく「スエス」の北に「エジプト」の南のま
 ある遠沙の港なりは「スエス」より「アレキサンデリア」迄
 地つた百二十りなるりあるを是中での蒸氣車ゆて

一日小通り航せども大船の喜望峰をぐるり廻り
 地中海もあつたもあふその海海遠くと不便利
 あるをなな紅海より地中海までの地刺ぬ航
 小舟紅通りの新字をゆるあど此航仲船の糸
 燈もたも小歐履もまきぎ糸込るるがまゝありされ
 ども「スエス」より「アレキサンデリア」までの途中中カイロと
 する城下あり妙変るる地ありる所四路度し
 とまげばともどもを見物せんりのと「スエス」の港より

上陸する不遠浅きれば船の沖のまふ浦をか
少船あつたをけるを例の跡に廊四方をめぐり
石筆をとる中ペイプル洋紙紙紙をかんあるまで

和船と隔たる海の遠は

海の東向とまはなれ

け地とらうけ勢圍なれば八汗をぬぐひあつら

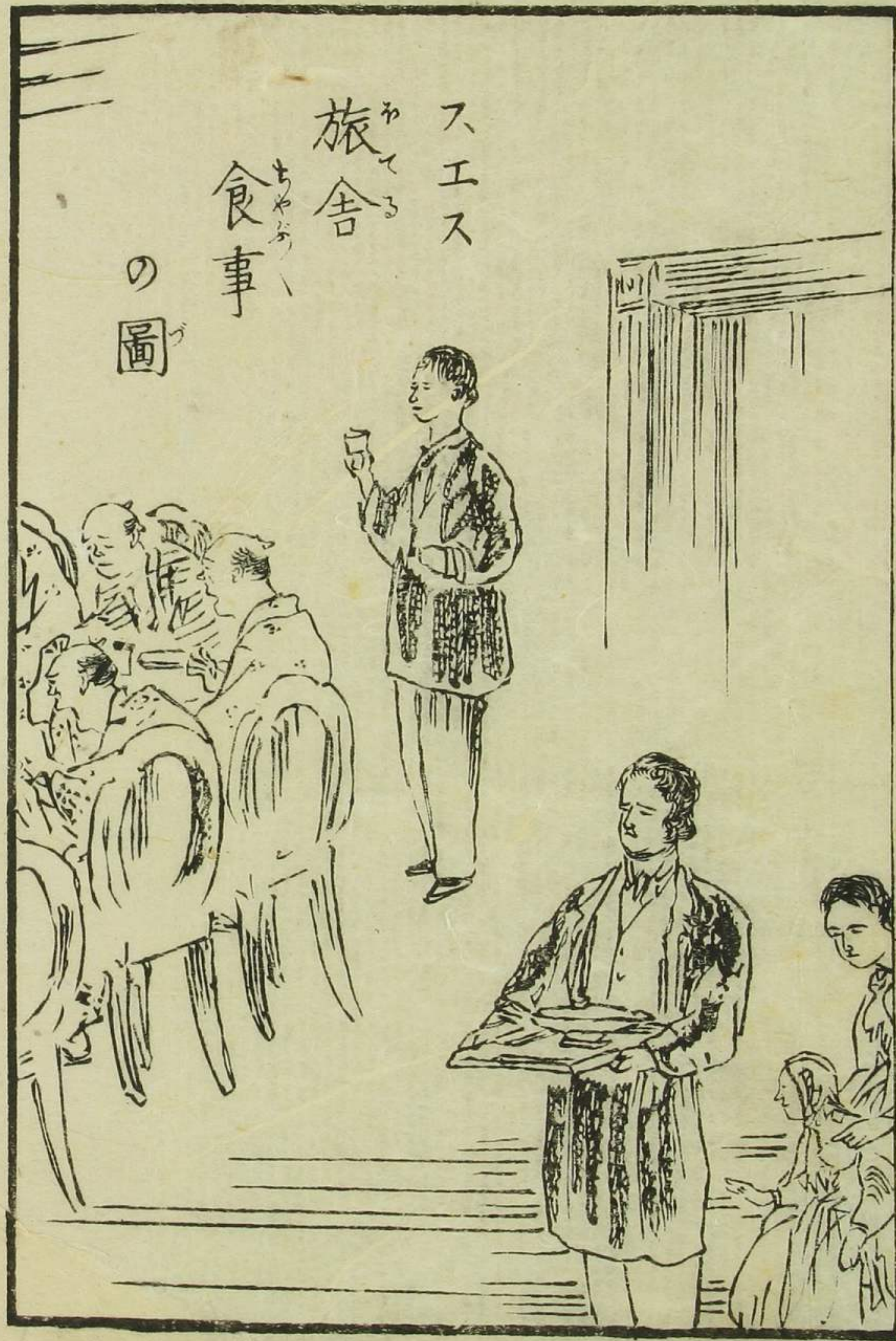
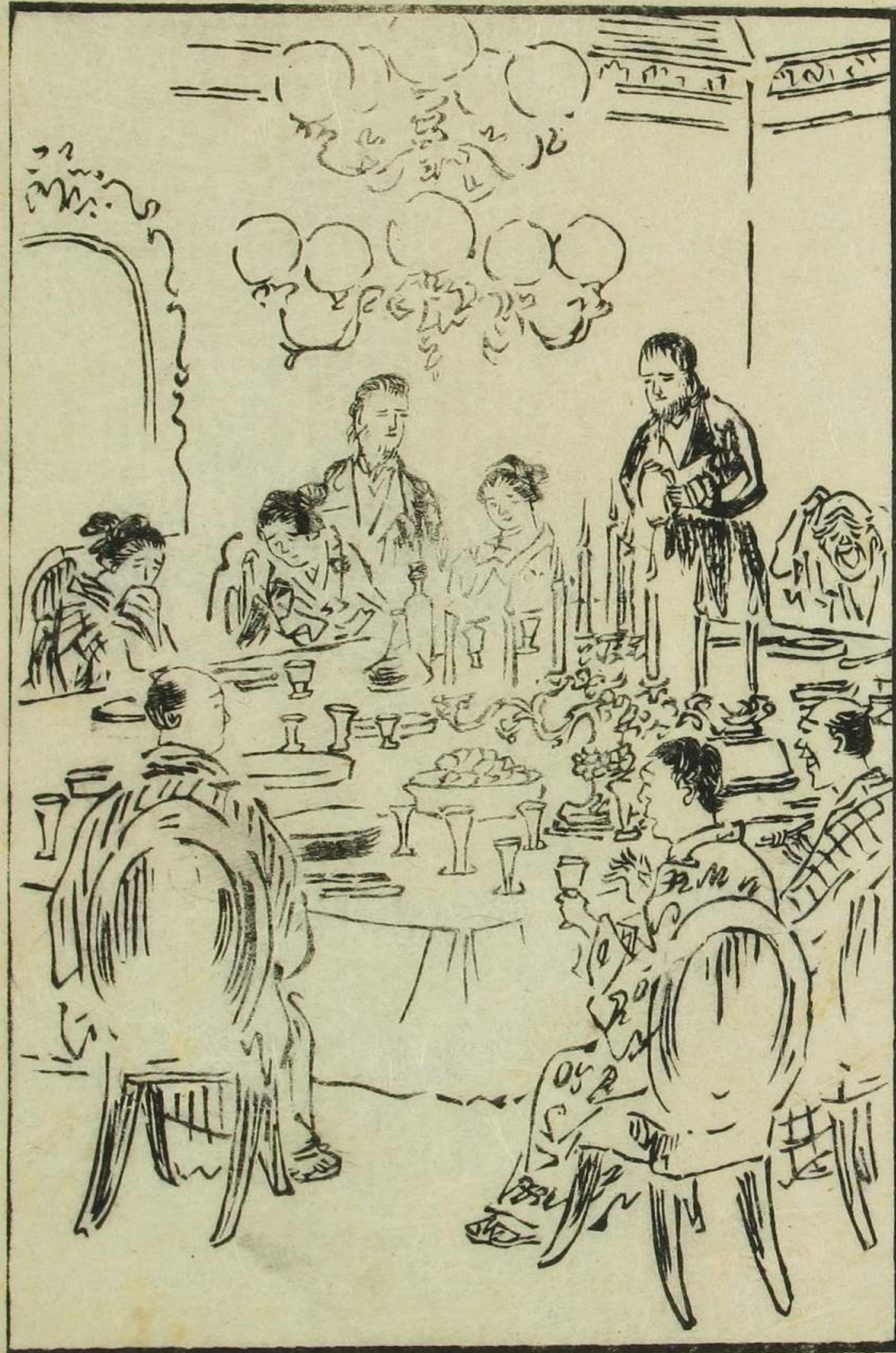
焚たその船もまきのをあら

〜あつらさへから〜あつら〜

新々々々〜上陸してホテルお若〜け目の外をよ
一泊一夜の日蒸氣車おありアレキサンデリヤをよび
途中カイロの回跡を一覽のつりお変わり。まふ跡
に解北八巻の屋敷を後の一釋と食するの礼堂お
番あ〜びあつら洋地のフランスに利コツプ酒をめぐり
あひのまき入のお変らふと跡酒海むご言はくら
かゆくせ 右のついでに會だひあつらびて左おあつら四イレ「フランデ
イシヤン」にあつらまき入のまき入のまき入のまき入
トあつらひあつら日本人ごのめ 跡「ナト通さんカウめ」

グイ〜春の志をアつつつ〜さるまるり身々々ぬへ西洋〜
 のの例のアア〜さるまるてるだらうう〜一一登はしやせう
 通ツット跡のアア〜さるまるののあひびび〜格別〜
 折角ののあひびび〜計のあひびび〜北北〜
 ああ〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
通ののああ〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
 通通〜
 むむねねのの〜通通〜

らら〜トト摺摺〜ささ〜つつめめけけたたらら〜役役〜ささ〜ののああ〜ぬぬののああ〜
 一一觸觸別別〜ささ〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
 面面ののああ〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
 だだ〜跡跡〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
 紅紅粉粉をを〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
 ちち〜長長〜清清〜ああ〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
 能能色色〜白白粉粉〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜
 つつ〜ひひ〜やや〜百百鬼鬼〜夜夜〜行行のの繪繪〜巻巻〜物物〜ぬぬののああ〜ぬぬののああ〜



スエス
旅舎

食事

の圖

から物をとらア 活イヤち痛のなきを變化自在と
 りかこをわくわくと洋薬若たらひやうたきま
 たらうとくくわらわらぐをけいめあひみせ入ウ
 かんていあつて痛がかりはじまるこのうへにたも食ぬ
 へんかあつてはとらぶあてあつての間の粗をふ
 ちよびとか青木固さの勢の強弱をばし
 どうだらう子エ大将ききとらふ ころサひはしく
 陽をとり移入る旅やうもよみアらうとドリリン

ケンふるあつてガラス障子や拓盤をあつて
 償ひをとらするのいあんだぜ 活モシモウくあひく
 邦國の情も分つたらあやアそんなあつて
 らたやせんまうらだしたらあハてあはれをあらわ
 してんあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 あんどやうつけいさうううッ ありひつたあつてあつて
 ちよびあつて口上く 室物ならんあ入るあつてあつて
 のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

ト同ふるもるまじうのひんていひのさしのか

ぶがらふもらう〜マテンテチテン〜ハSARU〜トキ

あつたのひんていひのさしのか〜ハSARU〜トキ

あつたのひんていひのさしのか〜ハSARU〜トキ

あつたのひんていひのさしのか〜ハSARU〜トキ

あつたのひんていひのさしのか〜ハSARU〜トキ

あつたのひんていひのさしのか〜ハSARU〜トキ

あつたのひんていひのさしのか〜ハSARU〜トキ

ハアある〜ハアあるアメリカの花旗とやらがま
ひうらかの〜ハアあるアメリカの花旗とやらがま
階造りも此が二十有むうりあつたが十あ六けんもあ
らうかぬもらう〜ハアあるアメリカの花旗とやらがま
〜後〜ハアあるアメリカの花旗とやらがま
めあふか〜ハアあるアメリカの花旗とやらがま
みるこもよめめ〜ハアあるアメリカの花旗とやらがま
ろエラット〜ハアあるアメリカの花旗とやらがま

びんのん ぢサテく さむくく け反の 将業の かつり
 半小舟をくく 船とこまきちの 夕かきここれと号
 て川風さると 福牡丹舟の 小便十八町 長い さみさみ
 ぬんろくろくで ぢめんを かつりめく
トかきこつがあら
おこまゆりこびまき
 ゆこの 船く ぼんヤンヤク ぢくともめくろく ちをきく
ありさく
 通流船のこまきを えてゴイサのき ぢんおちるぢい ぢんぢん ぢんぢん ぢんぢん
 ひまをぢろけ ぢまをぢの ぢまをぢの ぢまをぢの ぢまをぢの ぢまをぢの ぢまをぢの
 ぢまをぢの 通サテおちるぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢんぢん
 らくよ入ちゆぢだらとぢぢぢらほく 先絶代く 昔提の お

あのみのためけふのため 借残のため 質屋のため
 借たらかきぬちの ぢおちらんぢらん のおぢの
 文カ、ポク ぢあぢぢらさぢら ぢまぢま ぢぢぢぢ
 国ぢぢぢぢら の ぢえ 軍業 難ぢ 昔ぢ ぢぢの 日ぢ
 横濱港 ぢぢの 女部 ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ ぢぢ
 梟毛 ぢ
 入乃 草食 ぢ
 小ある ぢ
きんトよ

かり。そのまゝを是れと申す。カ、ポ、ク、ポ、ク、ク、人の彼
 しかけをもちたるもの異國と出づ。け、ろ、ろ、と、華
 使船たのこでわ、わた、出帆、と、ち、ち、あ、ら、ん、で、が、ら、ん
 だ。一、數、ら、あ、や、め、ん、と、ら、ん、だ、ゆ、を、食、ッ、て、と、ら、ん、ぶ、半、肉、
 十、斤、ッ、て、あ、つ、つ、く、鶏、を、ッ、て、の、ろ、ま、の、玉、子、を、皮、ご、と
 三十、ッ、て、パン、の、生、揚、ろ、の、ろ、ふ、ふ、十、春、ッ、て、ま、形、の、ピ、ル、を
 十、巾、の、ん、ご、と、ら、ん、ぶ、カ、ホ、ク、ホ、ク、ク、その、卵、^ヲ「ブラニニ」^ロ
 イ「ヤ」ニ「ヤ」ニ「ニ」の、も、あ、つ、た、が、ろ、ろ、の、あ、つ、つ、を、と、ら、ん、

け、あ、つ、つ、く、春、ご、あ、ら、ん、ぶ、と、ら、ん、ぶ、の、ろ、ろ、の、ん
 の、塩、辛、ご、と、ら、ん、ぶ、と、ら、ん、ぶ、と、ら、ん、ぶ、ハ、ア、コ、リ、ヤ、
 と、ら、ん、ぶ、の、ま、の、魯、魯、西、も、さ、ら、ん、ア、墨、利、加、も、も、車、で
 通、ろ、英、吉、利、僕、ハ、こ、ま、や、ど、葡、萄、牙、も、も、
 ち、ら、ろ、の、佛、蘭、西、が、浮、世、の、希、臘、と、兵、を、あ、
 床、を、土、身、具、の、ひ、ろ、夜、若、埃、及、あ、ら、ん、
 よ、ら、あ、や、ん、せ、支、那、と、と、り、ま、ら、ん、ぶ、魯、西、
 ふ、ろ、ろ、ろ、ろ、の、ま、ら、ハ、ア、ト、ツ、チ、リ、ト、ン



卯う小こ玲れい花げののあるあくくららびびににいいややああししててののららひ
 おおせせううのの上うややららじじたたららどどんんをを知ちれれるるをを引ひききままししり
 知しももややアア志しねね入い折せ角かく吞とんごごるる連れん洋やう酒しゆががささめめてて志しぬ
 ッッたたままりりししいいササアア〜〜ままんんああがが振ねるるここ〜〜ああららアアままたたく
 脱だつををごご〜〜
ト女をらそひたつてひるぎういねやめくお孫に席の
あわだ小てまここのぢ〜しるまをふかるとより通に席と
ひまふ〜〜〜 例れいののててたたららめ
 まま〜〜ををととひひままししまましし〜〜たたるる人ひと力ちから車くるま
 ののせせらられれたたののががおおめめんんととららああん

孫まごにに席せき方かたああくくををほほじじくく落おすすのの口くちををひひららままて
 更さらああののててののせせららけけ方かたのの口くちををひひららままて
轍ここ〜〜ををおおめめけけりりややああわわままりりおおせせうう
 此こゝ一いつ首くびおお〜〜居ゐあありりせせたたるる〜〜知ちひひををののりりよよかかし
 ツツ夜よもも更さら〜〜ままごごのの聖せい日じつをを契ちぎりりててまま〜〜卯う小こ玲れい花げのの
 入いららままりり
 ○作者魯父看官小伏裏拙作の西洋果を
 僥倖小時行小かるひ追々續編を錫登さる

るが為不備書刑厭を促さ事さなから肩
 を焼が如し故不熟字の顛倒を今最後とする
 のあり甚しきもの多初編の下末ある唱衆
 を著し二編の凡例ある柱礎の傍刻をせき
 じめ編の序ある堯舜文武并操と鑑心書を
 文氏ぶんしの二字を脱すの類は余程あざしうか
 酒後さけのちのやうなる人軍々々ありて

西洋道中膝栗毛九編上三

